

# 未来創造 ゆめスクールプラン

## 第1回 諏訪市学校再編推進委員会



令和5年8月24日

諏訪市教育委員会

# 「ゆめスクールプラン」策定の経過

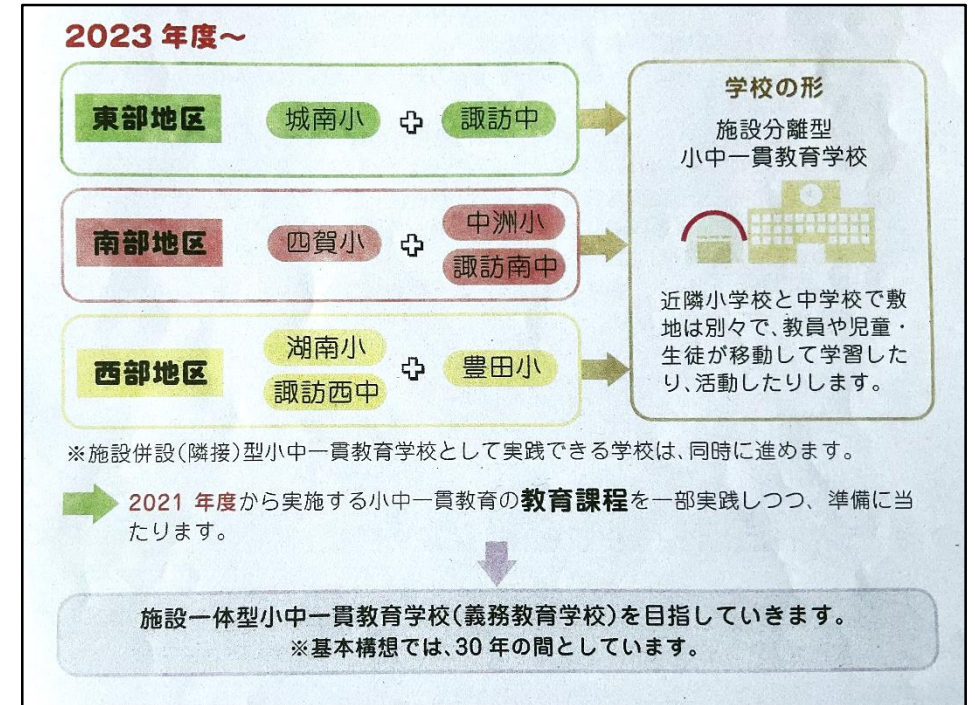
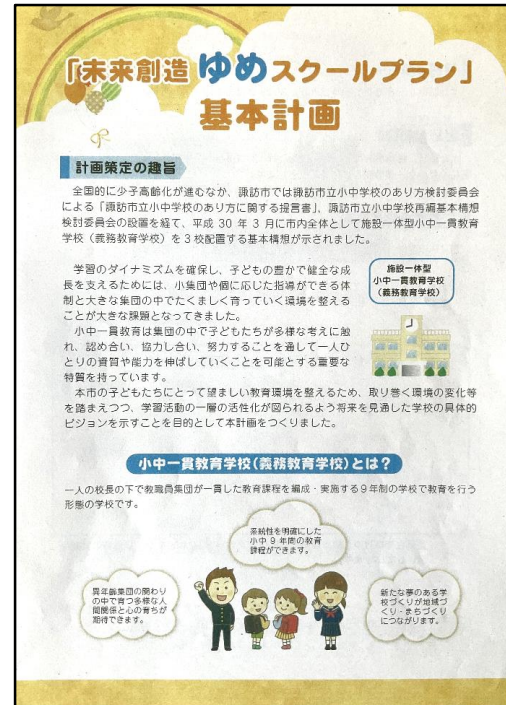
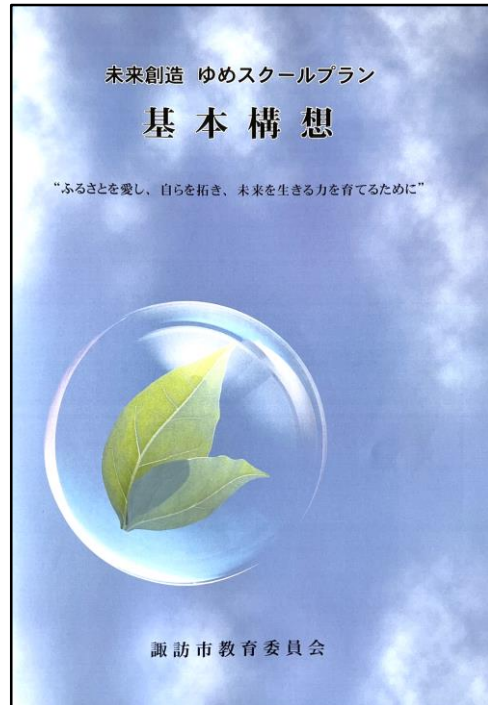
平成26年2月 諏訪市立小中学校のあり方  
検討委員会 発足

平成28年2月 提言書を教育委員会に提出



# 平成28年11月 基本構想検討委員会 発足

# 平成30年3月 未来創造ゆめスクールプラン基本構想 決定



未来創造ゆめスクールプラン

はじまります！ 諏訪市の小中一貫教育  
「自らを拓き、未来を生きる。子どもを育てます」

**未来の諏訪を創る9年間の人間教育**

●「小中一貫教育」って何ですか？  
小学校と中学校で共通する「9年間の一貫した教育目標」を定めた上で、「9年間の系統性・体系的に記述した、小中一貫カリキュラム」を編成し、児童生徒の成長を支える仕組みを整える教育です。これからの少子化等の社会環境の変化に対応できるように、児童生徒一人ひとりの「社会的自立」を9年間を通して育む環境を創る教育です。

●具体的にはどのような教育になるのですか？  
・小学校と中学校の教員が、9年間の子どもたちの成長を共有し、児童生徒一人ひとりの「教育的ニーズ」に応じた支援計画をもとにした特別支援教育を進めます。また、「小学校高学年の教科担任制」「中学校の学年担任制」などにより、複数の教員がこれまで以上に連携して子どもの育ちを支えます。  
・一貫教育の実現に必要な「教育課程の特例」を諏訪市教育委員会の判断でできるようにことから、「すわっこ学習（小学校）・諏訪学（中学校）」（相手意識に立つものづくり科）を核にした学習をよりダイナミックに展開する中で、ふるさとや人を想う心を育みます。  
・地域と連携した「コミュニティスクール（CS）」は、小中それぞれの特色を活かした活動を進めると共に、小中が連携して一体となった学習を推進します。  
・小中の段差を緩やかにする取組を工夫して、小学校と中学校のいっから中学校1年の生活に不安をもつ、いわゆる「中1ギャップ」の緩和を目指します。

令和3年4月より東部地区の上諏訪中学校と上諏訪小学校において、施設併設（隣接型）の小中一貫教育が始まります。

# 令和3年度 上諏訪小学校開校

## 諏訪市の小中一貫教育が目指す方向性を策定

### 上諏訪小・中学校を一貫教育校として開始

未来創造ゆめスクールプラン

「自らを拓き、未来を生きる」子どもを育てる

諏訪市の小中一貫教育（施設併設・分離型）が全ての中学校区で始まります！

<p><b>施設併設（隣接型）</b> 上諏訪中学校区（東部地区第1期）</p> <p>教育目標 「自らを拓き、未来を生きる」</p>	<p><b>施設分離型</b> 諏訪南中学校区（南部地区）</p> <p>教育目標 「自分と友だちを大切に、夢に向かってあゆむ」</p>
<p><b>施設分離型</b> 諏訪中学校区（東部地区第2期）</p> <p>教育目標 「自ら学び、認め合い、未来を創る」</p>	<p><b>施設分離型</b> 諏訪西中学校区（西部地区）</p> <p>教育目標 「社会の中で、私もみんなも「幸せ」になる」</p>

小中一貫教育学校は、小学校と中学校で共通する「9年間の一貫した教育目標」を決め、学習や交流等「9年間の学び方の連続性や教育内容の系統性・体系的に記述した指導の工夫」をして、いわゆる「中1ギャップ（小中の段差）」の緩和をしながら、児童生徒の成長を支える教育です。また、これからの予測困難な時代に対応できるように、児童生徒一人ひとりの「社会的自立」を9年間を通して育む環境を創る教育でもあります。

諏訪市では、令和5年度より各中学校区を小中一貫教育学校とし、可能な部分から一貫教育を積極的に実施していきます。

- 1 高学年（5～6年生）の複数教科で、教科担任制を取り入れます。**
  - 専門性に優れた質の高い授業を行うことにより、学力や学習意欲の向上が期待できます。
  - 一人ひとりの子どもに、複数の教員が様々な視点から関わり、課題を共有して、組織による子どもの理解へとつながります。
- 2 教科内容等のつまずきを、ジョイントカリキュラムで解消します。**
  - 中学校の学習でつまずきやすかったり、定着が不十分なことや年度以降に大きく影響したりする学習内容については、学年（期）における学習内容の取り上げ方や順序、教材等を整理し、学習のつながりを大切に授業をします。
- 3 「伝え合う力」<sup>※1</sup>を育む授業をします。**
  - 「なぜ？」「どうして？」という疑問（課題）をもち、その解決に向け情報を集め、協力して課題を解決する授業を工夫します。
  - 自分の学びや意見を自分なりの工夫した表現で伝え合えるよう、授業を展開します。
- 4 児童生徒のアイディアを積極的に取り入れながら異年齢交流を推進します。**
  - 学習、行事、読み聞かせ、運動会、音楽会、文化祭、アフタースクール、ボランティア活動などの企画、運営、参加や、児童生徒の発想・アイディアを生かしながら進めます。また、小中のコミュニティスクールの連携を更に進めます。
- 5 児童生徒一人ひとりの「教育的ニーズ」に応じた支援計画」を基にした特別支援教育を進めます。**
  - 小中の教員と保護者が、「国の可能性の芽から決めた出された教育課題」に応じた9年間のカリキュラムを共有し、子どもの育ちの支援に向けた学びを進めます。
  - インクルーシブ教育の一環の実現と授業のユニバーサルデザイン化を進めます。

※1 施設併設小中一貫教育学校「開校している」と同じに他校にも参加が予定されている小・中学校において、教育目標及び教育課程に一貫性をもち、互いに連携が図られることにより、教育活動が推進されること。学習課題の共通の理解が図られること。

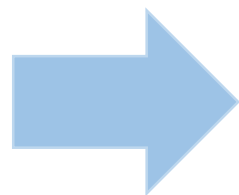
※2 伝え合う力「相手や自分の意見・考えを正確に理解しあう力」

# 令和5年度から、中学校区をベースとして小中一貫教育を開始

# これまでの学校 と これからの学校

すべての人が、健康で、豊かな人生を送るために  
「そろえる」教育から、「伸ばす」教育へ

子どもたちが多様化する中で  
紙ベースの一斉授業は限界



多様な子どもたちに対してICTも活用し、  
「個別最適な学び」と「協働的な学び」  
を一体的に充実

教師による一斉授業

主体

子ども主体の学び

同一学年で

学校種・学年

学年に関係なく

同じ教室で

空間

教室以外の選択肢

教科ごと

教科

教科等横断・探究

# 「学びの改革」の主な内容

- 1 小学校高学年で拡充する「教科担任制」
- 2 小中学校の学びをつなげる「ジョイントカリキュラム」
- 3 探究の学びを通して育む「伝え合う力」
- 4 児童生徒主体の「異年齢交流」
- 5 一人一人が自分らしく学べる「特別支援教育」

# 子どもや地域起点の「ゆめスクールプラン」

児童会・生徒会が  
いっしょに「あいさつ運動」



コミュニティ・スクールも連携して  
育てたい子ども像、学校像など語り合う



# 小中一貫教育を進める背景

小学校の先生は、子どもたちが中学校を卒業する時の姿をイメージできているだろうか？

中学校の先生は、小学校のとき、子どもたちが、どの学習の部分でつまずいたかを知っているだろうか？

小中のギャップ(いじめ、不登校、暴力行為の増加、環境の変化や勉強が難しくなることへのストレス)への対応が必要ではないか？



# 基本となる計算力

中学1年の最初の単元「正の数・負の数」で見えるつまずき

## 計算力

たとえば

- ・約分ができない、しない
- ・通分ができない、あいまい
- ・かけ算が不確か ・九九があいまい
- ・小数が出てくると計算できない など

## 学び方

- ・自分の「分からない」ところが分からない
- ・「分からない」を「分かる」にする学び方が必要

(小学校5年)

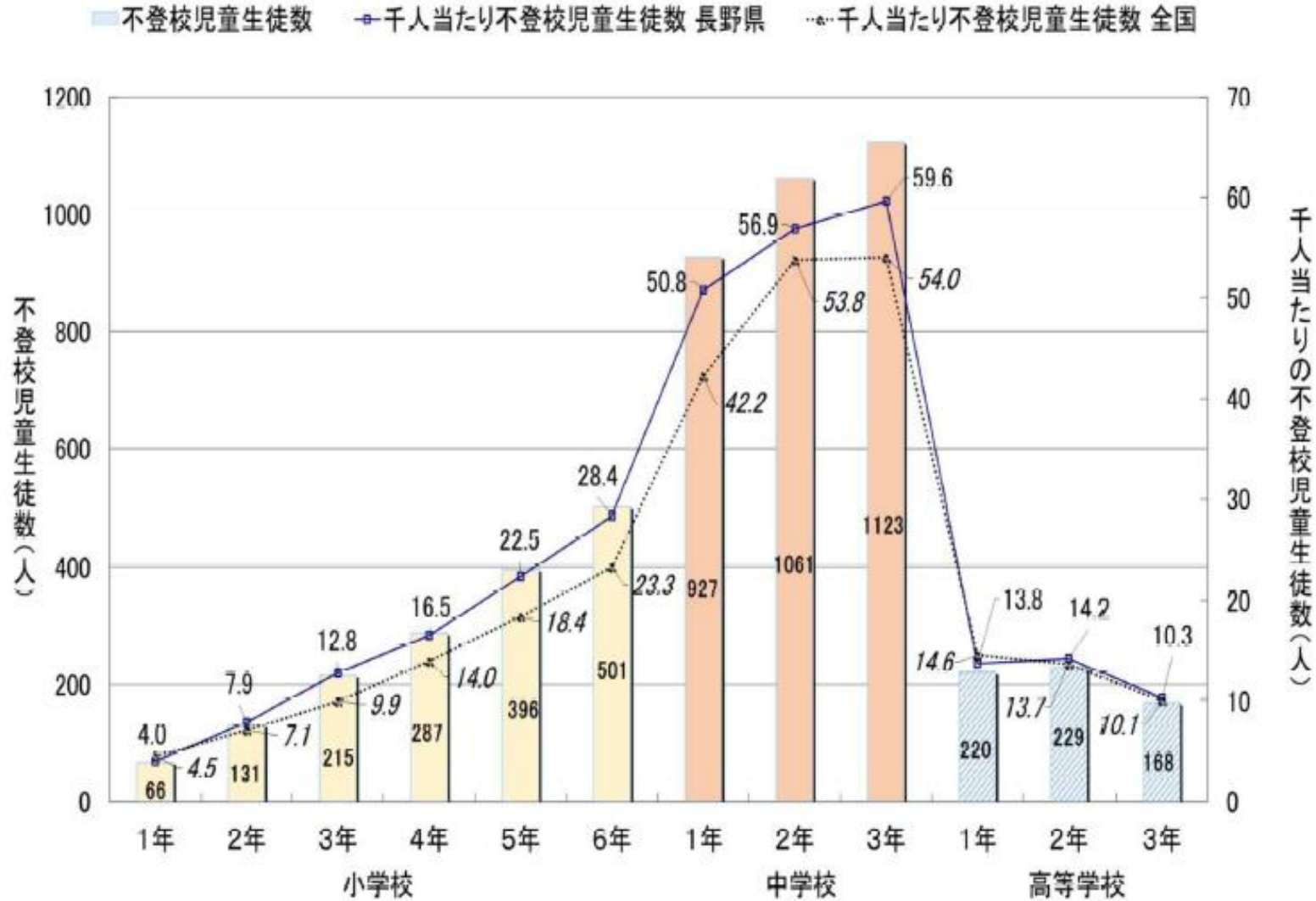
$$\frac{1}{3} + \frac{1}{6} = \frac{2}{6} + \frac{1}{6} = \frac{3}{6}$$

(中学校でも)

$$\frac{1}{6} - \frac{2}{3} = \frac{1}{6} - \frac{4}{6} = -\frac{3}{6}$$

$$\frac{1}{4}a + \frac{1}{6}a = \frac{6}{24}a + \frac{4}{24}a = \frac{10}{24}a$$

# 不登校児童生徒の推移



注1) 調査対象：県内国公立小中高等学校 672校 高等学校の4年生、単位制の人数は除く

# 小中一貫教育のねらい

義務教育9年間を連続した教育課程としてとらえ、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた具体的な取組内容の質を高めること

# 小中一貫教育の導入の歴史

2000年 広島県呉市(3小1中を統合)国の研究開発校

2003年 構造改革特区研究開発学校制度が創設

2004年 東京都品川区      2006年 東京都三鷹市

2008年 教育課程特例校制度が創設  
その後、全国の自治体で取り組み、成果を蓄積

2016年 改正学校教育法の施行により制度化

# 小中一貫教育で期待される効果

- 「中1ギャップ」の緩和  
不登校、いじめ、暴力行為等の減少
- 児童生徒に思いやりや助け合いの気持ちが育まれる
- 中学校への進学に不安を覚える児童が減る
- 上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まる
- 下級生に上級生に対する憧れの気持ちが強まる
- 自己肯定感、自己効力感が向上する
- 学習意欲の向上、授業の理解度の向上、学習習慣の定着が図れる
- 小中学校の教職員間で互いのよさを取り入れ、協力意識が高まる

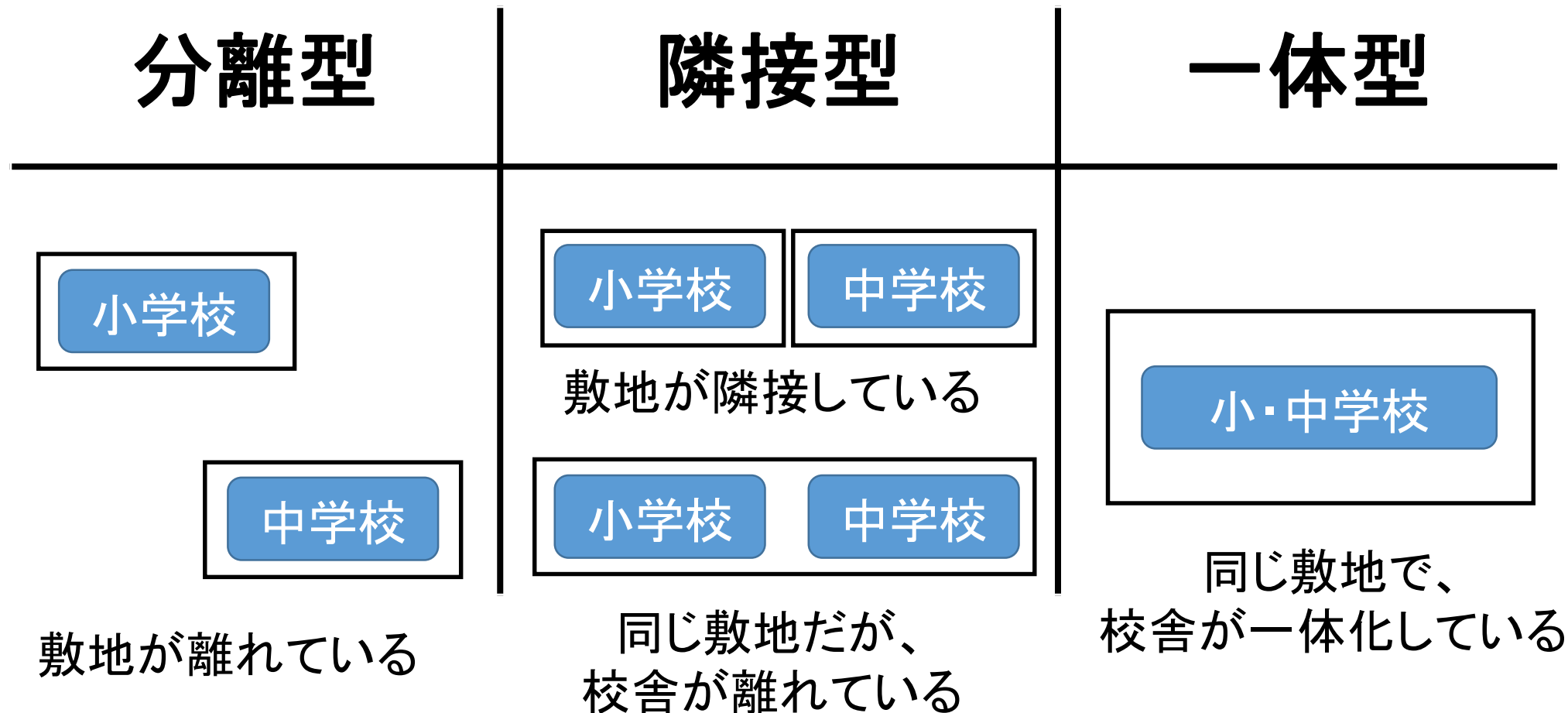
# 小中一貫教育の課題と対応

- ・児童生徒の人間関係の固定化(特に小規模校)  
→多様な形態での異学年交流の機会を増やす
- ・小学校高学年のリーダー性の育成  
→校舎やフロアの区分による成長段階の演出  
各行事の中で、高学年がリーダーシップを発揮する機会の設定
- ・中学校における生徒指導上の問題の小学生への影響  
→(全国の事例では聞かない)

# 小中一貫教育の課題と対応

- ・教室、グラウンド等、施設やスペースの確保及び使用時間調整  
→面積効率の高い計画、一方で単独では持てない施設の充実
- ・校舎間等の移動、活動にともなう児童生徒の安全確保  
→階段、設備のサイズの違い  
小学生が安全に活動できる、遊び・運動スペースの確保
- ・施設一体型の課題  
→登下校時間、授業時間の違いへの対応  
校地面積の確保(運動場、遊び場、屋外教育環境)  
余裕のある空間を生み出す工夫

# 施設一体型小中一貫校とは





# 上諏訪小・中学校(昨年度の取組)

- ・小・中学校の教員が可能な教科で、相互に学校に入って授業を行っています。
- ・6年生が中学校で下記の時間割で授業を受けています。

## 【6年1部】

	月	火	水	木	金
1校時	*	算数	*	算数	*
2校時	算数	外国語	算数	外国語	算数
3校時					家庭
4校時					家庭

## 【6年2部】

	月	火	水	木	金
1校時	算数	*	算数	外国語	算数
2校時	外国語	算数	*	算数	*
3校時	家庭				
4校時	家庭				

### ☆6年生の授業

- 教科担任 中学校教員 算数、英語(ALT)、家庭
- 小学校専科教員 理科、音楽、体育

### ☆5年生の授業

- 教科担任 中学校教員 家庭
- 小学校専科教員 理科、音楽、体育

\* 小学校教員による授業

### ☆小学校の教員の中学校への乗り入れ

- 6年学級担任 国語(T-T)、数学(T-T)

上諏訪小・中 日課表(通常日課)

上諏訪小			上諏訪中		
校時	5時間	6時間	6年生の動き	校時	時間
朝の会	8:15 ~ 8:30			朝読書	8:10 ~ 8:25
朝の活動	8:30 ~ 8:45		8:40~ 中学校へ移動	学活	8:25 ~ 8:35
あゆみ	8:45 ~ 8:55		1校時 8:50~9:35	1校時	8:45 ~ 9:35
1校時	9:00 ~ 9:45			2校時	9:45 ~ 10:35
2校時	9:50 ~ 10:35		2校時 9:45~10:30		
業間休み	10:35 ~ 10:55		※小学校へ移動 3校時より小日課へ	休	10:35 ~ 10:50
3校時	11:00 ~ 11:45		月:6-2、金:6-1 家庭科	3校時	10:50 ~ 11:40
4校時	11:50 ~ 12:35		3・4校時 11:10~12:20	4校時	11:50 ~ 12:40
給食	12:35 ~ 13:35		※小学校へ移動 給食より小日課	給食	12:40 ~ 13:30
清掃	13:40 ~ 13:55				
5校時	14:05 ~ 14:50			《以下略》	
6校時	14:55 ~ 15:40				
帰りの会	14:55~15:40	15:45~16:00	<b>・6年生の移動</b> 行きは、担任、中核教員の引率、帰校は、中核教員の引率または、中学校の教担の見送りで、児童のみの場合も有り。		
完全下校	15:20	16:10			
バス	15:40	16:40			



上小から上中へ



# 中学校の教室で学習する6年生の様子

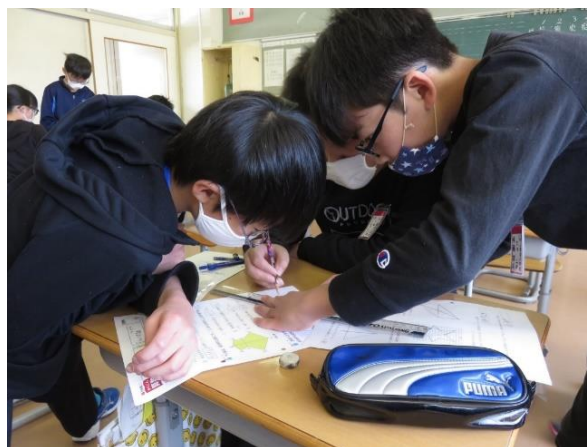
## 算数(週5時間)



## 英語(週2時間)



## 家庭科(週2時間)



# 小中学生の交流活動の様子



挨拶王になる



中学生が読み聞かせ

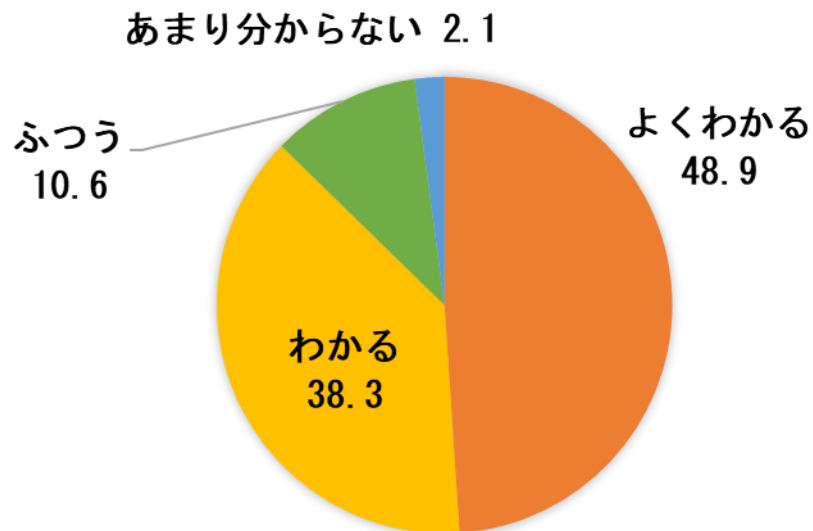
小学生と一緒に生活している鳥骨鶏と遊ぶ

合同避難訓練



# 入学後の評価＜学習＞

R4年5月 47名



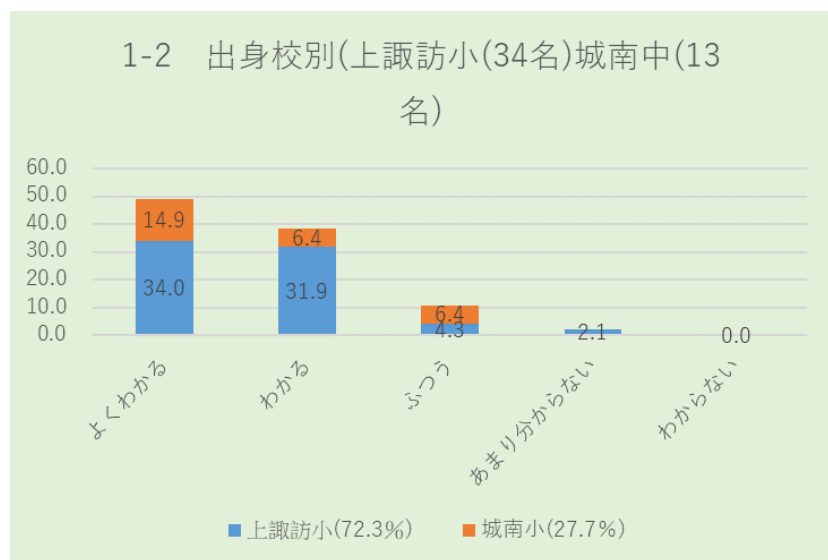
・上諏訪小学校にいた時も、算数、英語、家庭科を上諏訪中学校で勉強していたし、教科担任の先生もあまり変わらなかったのので、授業も受けやすいし分かり易いです。(上諏訪)

・私は、城南小学校で教科担任制でした。そのおかげで戸惑うことなく当たり前のようなので、行動がはやくなったり、落ち着いて授業を受けることができました。(城南)

・1人1人の先生が親しみやすく、内容がどんどん入ってくる。すぐ質問できるし、先生が話易い。先生全員が優しいから、緊張しないでも話せる。(上諏訪)

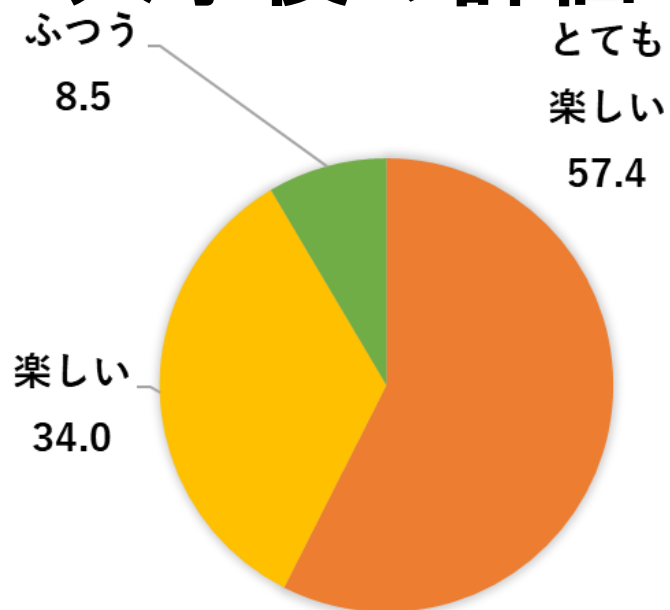
・各教科の先生は、1つ1つ大切なポイントを細かく教えてくれるので、分からない所は、ポイントをもう一回見直しすれば、問題が解けるので楽しくできています。(上諏訪)

・分かる時もあるし、分からない時があるから。教科担任制だから、くわしく教えてくれるから。(城南)



# 入学後の評価<生活>

R4年5月 47名

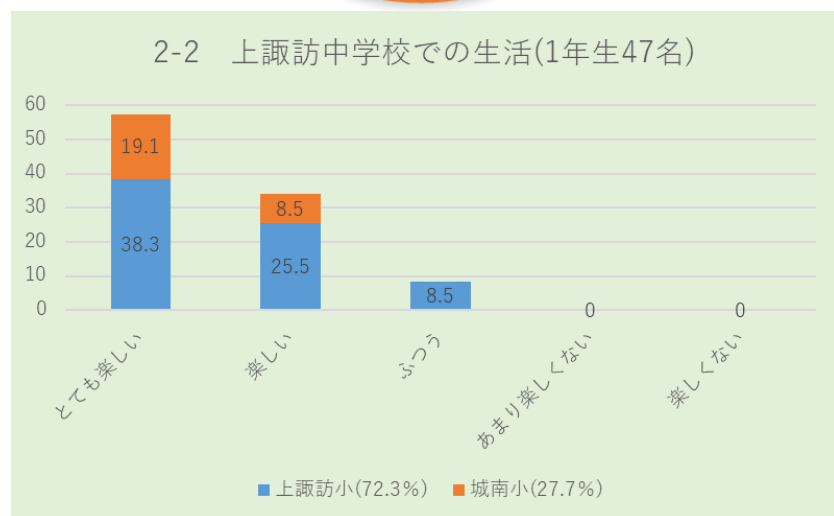


・クラスも変わり、城南小や他の学校から来た人もいるので、友達も増えとても楽しいです。(上諏訪)

・たくさんの人で話したり、小学校ではできないことなどができる。小学校では先輩などはいなかったから、中学校では上の人への気遣いができるようになった。(城南)

・仲の良い友達と違うクラスになっちゃったけど、新しい友達ができ、新しい友達と一緒に勉強したり話したりするのは楽しくて好きなので、上中での生活はとても楽しいです。(上諏訪)

・友だちも少しできて、勉強も楽しくて、いい中学校生活がスタートできたという感じです。そしていろいろなことが新しいので、ワクワクしながら1日を過ごしています。(城南)



# 6年生の感想

R4年5月

- ・中学校での生活が、どんな感じが分かって役に立つと思うし、授業も分かり易くて良いと思う。
- ・結構中学校に行っているけど、中学生は流石だなと思うことが多い。算数や外国語、家庭科がとてもやりたくなる授業だなと思えるようになった。
- ・中学校の集中力はすごいと思う。避難訓練の時、すごく静かだった。
- ・中学校と小学校では、空気が違った。緊張感ある。
- ・中学校で勉強する時、避難訓練をやった時に、緊張させる空気、集中させる空気があったと思います。
- ・行く時も帰る時も、上諏訪中の生徒と結構挨拶をして、これが小中一貫なんだと思いました。
- ・少しきまりが厳しいけれど、それが中学校！という感じで楽しい、挨拶してくれる先輩がいて楽しい。
- ・中学生のすごさなどが学べて、少し憧れる。

# 6年生の保護者の授業参観での感想

R4年7月

・「ここは勉強するところだよ」と言う、良い意味での厳しい雰囲気の中で、黙々と問題に取り組んでえり、学力の向上という点で、大変効果的ではないかと感じました。また、中学に入ってから授業のやり方の変化について行けないという点での「中一ギャップ」解消という点でも、非常に意味があるのではないかと思います。一方で、このやり方について行けないという児童もいると思われ、そのあたりのフォローは必要かもしれません。「算数はこの方法だが、従来の小学校のやり方の科目もある」というバランスをとることも、子どもたちにとって大切だと感じます。〈算数〉



・ ほぼ英会話だけの授業で、参観している親の方が委縮してしまいそうでしたが、子どもたちは楽しそうに授業を受けていて安心しました。聴くこと、話すことを中心に、外国語にも興味を持つという雰囲気があり、補助の先生もいるので、子どもたちも安心して授業を受けられると思います。〈外国語〉

・ リスリングが出来ないと、何を質問されているか分からないまま授業が進んでしまうことが心配です。子どもたちの様子を見ながら適宜フォローして頂けるとありがたいです。〈外国語〉

・ 特別支援のクラスを見せていただきました。教頭先生がご案内してくださり、特別支援のN先生とも我が子の不安な部分のお話をじっくり聞いてくださり、とても安心しました。〈特別支援〉



# 教育委員の参観での感想

R4年7月

- ・ 6年生が靴をもって中学校へ行って、英語、算数、家庭科の授業を受けるという日常に、どんな工夫があるのか、興味がありました。実際に上諏訪小中の学校訪問をさせて頂いて、子どもも先生方も落ち着いた学校生活を送れている様子を目の当たりにして、敬意を表したいと思いました。
- ・ 授業の内容にも感激しました。事前の教材研究の上に立った、この1時間に何をどう身に付けさせるか、明確なねらいのもとでの授業。子ども達が良い表情で学習していました。
- ・ 「テンポの良い授業は子どもが飽きない」「授業は最大の生徒指導」
- ・ 小学生が中学校の校舎に行ったり来たりと、ある程度自由にできるというのが、本来の小中一貫の形に近い部分が具現化できている良い環境かな。自分達の先輩である、お兄さん、お姉さんの普段の姿、行動が見られること自体、本当に形に表れない、小中一貫の良さかもしれない。
- ・ 「小学校のカリキュラム」であっても、「あ、これが中学の授業なんだ。」っていうのを肌で感じながらやってく。そこで身につけたことによって、中学に上がっても、そのペースについていける。そういう意味では、中1ギャップのある部分っていうのはクリアできるのではないか。

# 教育のソフト面を推進しつつ、ハード面の整備を検討

**未来の取組を創る9年間の人間教育** 各中学校区で教育目標、めざす子どもの姿を共有し、学び・人・地域とのつながりを深める教育活動を小中が連携して進めます。

✓ 中学校3年生になった子どもの姿を想い、小・中学校の先生と一緒に「学習内容」や「学び方」を考えます。

- 伝え合う場面が必要となるように、小グループの学習を工夫します。
- 黒板の書き方等の形式を揃え、小中同じようなスタイルで授業をします。

低学年 中学年 高学年 中1 中2 中3

小学校 中学校

**小学生は…**

- 話を聞いてもらえるので嬉しいです。
- 分からないことを、分からないと言います。
- 友達に説明することで自分の考えが深まりました。また、国語の宿題の学習で意見を言った時にも友達に共通して思ってもらってうれしかったです。

**中学生は…**

- グループで話し合いながら問題を解くときに、自分の考えを伝える。また、考えつかないような友達の見解は、参考になるのでうれしいです。

✓ 小学生と中学生が、日々の学びを活かした、たくさんの交流をします。

小中一貫教育給食献立の日 小学生がメッセージを届ける

「自分たちが作った味噌を、みんなと一緒に味わいたい。」

「小学生の語りがすごい。お味噌汁美味しかった。」

「自分たち（3年生）もやってみたから分かる。小学生の語りがすごいです。」

「中学生の発言がすごく上手だった。来てくれて嬉しかったです。」

「小学生の感想」

「中学生の感想」

小学校 中学校

「つながり」を大切にします

「今日のテストおつかれさまでした。中学校に行くよ。テストをしている姿を見て、さすが中学生と感心しました。私たちは卒業生の時に味噌作りをしました。そして今日の給食で、「お味噌汁の味噌汁」と「味噌の味噌汁」を出していただきました。中学生のみなさんと先生方にも味わって食べてもらいたいです。」

小学校6年生のメッセージ

「今日のテストおつかれさまでした。中学校に行くよ。テストをしている姿を見て、さすが中学生と感心しました。私たちは卒業生の時に味噌作りをしました。そして今日の給食で、「お味噌汁の味噌汁」と「味噌の味噌汁」を出していただきました。中学生のみなさんと先生方にも味わって食べてもらいたいです。」

「ふるさと学習「すわか学習・諏訪学」」 一子どもたちの願いは、「諏訪のこと、もっとも知りたい、そして知ってもらいたい。」 学級や一人ひとりが見つけた「ふるさと諏訪」を、地域に、世界に、発信します！

「自分もなまじりかになかったけど、諏訪の味を知ってもらいたいという願いを込めていきたい。」

「[移居先への見学で]」

「心に残ったのは、えん堤があっても、きんたいうことでも。だけど、たくさんのお土産をもらって、すこいことだと思いました。」

「諏訪の魅力伝えるためには、どんな工夫が必要ですか?」

「諏訪のいいところは、「諏訪の水って、すいんだよ!」」

「[移居先への見学で]」

「心に残ったのは、えん堤があっても、きんたいうことでも。だけど、たくさんのお土産をもらって、すこいことだと思いました。」

「[移居先への見学で]」

「心に残ったのは、えん堤があっても、きんたいうことでも。だけど、たくさんのお土産をもらって、すこいことだと思いました。」

「[移居先への見学で]」

「心に残ったのは、えん堤があっても、きんたいうことでも。だけど、たくさんのお土産をもらって、すこいことだと思いました。」

「[移居先への見学で]」

「心に残ったのは、えん堤があっても、きんたいうことでも。だけど、たくさんのお土産をもらって、すこいことだと思いました。」

✓ 児童生徒一人ひとりの学びの可能性を最大限に伸ばす工夫をします。

- “小中のつながり”を大切に取組を進めます。
- 教職員の専門性を活かすシステムや研修を充実させます。

学習指導 先生方の研修 小中学生の交流

✓ 教育委員会は、学校や地域のニーズを踏まえて、小中の学びのつながりを図る一貫教育の推進体制を整え、積極的に条件整備を支援します。

- 人的、物的、財政的に、教育課程・学習指導等に関わる支援をします。
- 中学校区ごと、小中学校の「コミュニティスクール(CS)」の一体化を目指し、組織や運営を共に推進します。

中学校区CSは、地域のより多くの人のつながりの輪を広げます。

電子黒板を設置して 1人1台タブレット

家庭科・モンシロ敷付け 総合・キノコの達人

「学校再編計画の推進、ICT機器の整備、実践的活用方法の研究、授業者に必要な加配教職員の配置、市町村の教職員研修の企画、運営、先進地域の視察研修の計画と実施等」

「先着校・遠征校・教育学校の視察研修、小中の教職員が一緒に職員室」

「教育委員会事務局教育総務課に教育企画係を設置し、小中一貫教育に向けた企画、推進を図っています。」

「[移居先への見学で]」

「心に残ったのは、えん堤があっても、きんたいうことでも。だけど、たくさんのお土産をもらって、すこいことだと思いました。」

「[移居先への見学で]」

「心に残ったのは、えん堤があっても、きんたいうことでも。だけど、たくさんのお土産をもらって、すこいことだと思いました。」

「[移居先への見学で]」

「心に残ったのは、えん堤があっても、きんたいうことでも。だけど、たくさんのお土産をもらって、すこいことだと思いました。」

「[移居先への見学で]」

「心に残ったのは、えん堤があっても、きんたいうことでも。だけど、たくさんのお土産をもらって、すこいことだと思いました。」

# 信濃町立 信濃小中学校



平成24年開校  
(5小学校・1中学校)

児童生徒数  
661人(H24)  
412人(R5)

# 佐久穂町立 佐久穂小・中学校



平成27年開校  
(4小学校・2中学校)

児童生徒数

1100人(H27)  
735人(R5)



小諸養護学校  
分室を併設

# 軽井沢風越学園（私立）



令和2年開校  
(新設)

児童生徒数

園児63人

小中学生

228人(R4)

# 未来創造 ゆめスクールプラン

## 第1回 諏訪市学校再編推進委員会



令和5年8月24日

諏訪市教育委員会